

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年8月10日

【評価実施概要】

事業所番号	"0195000112
法人名	(株) ワークサポート
事業所名	グループホーム ふれやか ことぶき
所在地	北見市高栄西町7丁目2-2 (電話) 0157-57-3663

評価機関名	(有) NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成21年7月29日

【情報提供票より】 (H21年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 6 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	利用定員数計 9 人 常勤 3 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 5.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建て, 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	共営費18,000円 (10月~3月暖房費7,350)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	380 円
	夕食	380 円	おやつ	60 円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(6月25日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 78.6 歳	最低	61 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	とまべちクリニック・美山クリニック・こうえい歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームふれやかことぶきは、北見市中心部より東部に位置し、公営住宅や高栄小学校がある住宅地の中にあります。建物は洋風の木造2階建、大きな窓から陽が入り明るい雰囲気、1ユニットのグループホームとなっています。敷地は決して広くはありませんが、プランターによるミニ菜園を利用者とともに作り食材としても取り入れています。職員も地元の人を採用し、利用者のペースに合わせいきいきと安心して、穏やかな時間を過ごし、笑顔で接する事を心掛けています。開設して3年目に入り、隣家の高齢者住宅前を除雪したりしていますが、地域との理解と交流をどの様に取り組んでいくかが今後の検討課題になっています。地域に頼られるグループホームを目指しています。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価による改善については、地域との関わりと理解を深める事と、職員とのコミュニケーション確保及び研修への参加ですが、管理者と職員が会議の中で話し合い、改善点にも前向きに取り組んでいる姿勢が見られます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価への取り組みは、職員が評価を管理者・介護主任がその後職員と共に話し合っており、利用者・家族の意見・要望を謙虚に受け入れ、地域の人々に理解され支援されるグループホームを目指しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の理解や支援を得る取り組みとしての運営推進会議は民生委員・家族・地域包括支援センター担当者・施設長・管理者・職員とで構成されており、開設年度に一度開催しただけとなり、今年度はまだ開催されていませんが、ホーム側と家族が協力し合い自治会を含め開催する事を検討しています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見ポストを設置していますが利用は未だなく、職員は家族の面会時に利用者の様子を伝えたり家族の要望を聞入れる体制が出来ています。自己評価や外部評価を公開する事でより良い家族との関係を築く取り組みが見られます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、回覧板を廻したり道路清掃や近所の高齢社宅への除雪に参加しています。行きつけの美容室・理容院や商店を利用し、散歩や買い物で挨拶を交わしたり馴染みの関係を築いています。近所の幼稚園児の訪問もあり交流を深めています。

(有) NAVIRE

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心して暮らしを支えていく理念を掲げ、利用者が地域との関係を継続し信頼関係を築ける様、向上に努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務室や休憩室及び玄関・リビング等に見やすい位置に掲示されていて、管理者と職員は理念を共有し実践する為、ミーティング時に振り返り確認しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しています。回覧板を廻したり散歩の時に挨拶や声掛けをしています。近所の商店や理美容室を利用することで馴染みの関係を築いています。	○	町内会を通じてグループホームへの理解を促し、協力と交流に努める事を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を受け、管理者・職員全員がミーティングで改善に取組み、自己評価についても職員が取組み管理者が取りまとめ、サービスの質の向上に活かす姿勢が見られます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在、定期的には開催されておられません。メンバーは民生委員・包括支援センター担当者・家族と管理者・職員で構成しています。	○	地域の理解と協力を得る機会として、概ね2ヶ月に1回会議を開催して、ホームの利用状況・行事の報告と呼びかけ、意見や要望などを近隣住民と家族に情報を公表し開かれたホームとなるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北見市介護福祉課・社会福祉課や保健師・消防・社会福祉協議会と連携し取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が面会時、金銭出納状況やホーム内の事も説明しています。利用者の健康状態や日々の出来事について報告しており、突発的な病気についても受診結果報告を電話等で行っています。利用者の写真を同封して便りを送付し、利用者の状況を報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見ポストが設置してあります。家族からの不満・苦情を受け付ける窓口を説明しており、随時受付けて対応出来る体制があります。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者があった場合の利用者の精神的落込みを防ぐ為、在職のスタッフや引継ぎのスタッフのケアによりフォローしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を研修に参加出来る様に勤務ローテーションをやりくりして、内部研修や外部研修への参加を促しています。	○	運営者は、職員の希望に沿って研修に参加出来る様、管理者と話し合い実践することを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員は包括支援主催のケア会議や研修会等で交流しています。馴染みのグループホーム管理者とも意見交換をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族とともにホーム内を見学して、利用者が安心して支援を受けられる様家族から生活暦や好み等の情報を集め、ホームに馴染める支援が来ています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が進んでおしほりをたたんだり、食器の片付けや洗濯等家事の手伝いをしています。日常生活する中でコミュニケーションや表情から利用者の感情を理解し、喜怒哀楽を表現出来る関係が築かれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりがよりよい生活を築く為、利用者の意向を把握したり家族からも情報を提供してもらい支援が出来る体制があります。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者兼計画作成担当者が中心になって、利用者がよりよく暮らせる様利用者及び家族の意見を踏まえ、モニタリングをはじめ毎月ミーティングで検討してケアに反映させています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングして、利用者の状況や家族の意向に沿って評価し、現状に即したケアプランの見直しを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診支援・買物支援・ドライブや散歩・理美容室への外出支援等利用者の支援を行なっています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望された病院への受診支援を行なっています。急変時は、かかりつけの病院に連絡し搬送を行なっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に説明をして、また状況に変化があった場合でも、ホーム内での終末期のあり方について、数人は家族・医師と共に取組まれている体制があります。	○	利用者全員に説明してはいない状況なので、ターミナルケアのあり方について家族、かかりつけ医、職員も含め方針の共有に取り組む事を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛けや見守りに気をつけてゆっくりはっきりと聞き取り易い、さりげない言葉かけに心掛けています。個人情報保護を理解しており介護記録の記入では、利用者を見守りながら保管についても注意を払っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースを大切に支援を行う様心掛けています。また職員が一人ひとりの状況を充分把握して支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるように好き嫌いを把握し献立を考えています。刻み食や食材の大きさにも考慮しています。食事の配膳や後片付けは利用者自ら積極的に手伝っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっていますが利用者の希望や状態により、週2回以上いつでも入れる支援を行っています。入浴をしたがらない利用者については様子を見ながら声掛けして支援をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物のたたみやお絞りたたみ、歌やゲームに一人ひとりの生活歴から家事や趣味の役割を持って充実した生活が出来る様支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って買物や散歩等の外出支援を行っています。家族と一緒に外出もしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠しますが日中はセンサー対応により玄関に鍵は掛けないケアをしています。居室の戸には鍵は付いていますが、本人の了解を得て鍵を掛けない様声掛けしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策として緊急連絡網を作成し避難方法がマニュアル化されています。 昨年の10月に避難・消火訓練を行なっています。	○	運営推進会議などで告知し、夏と冬期、日中と夜間時組み合わせの避難訓練の実施や近隣住民にも消火訓練と一緒に参加してもらう事で、災害時に近所の方達に協力してもらえる体制と理解を得る取組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が一人ひとりの生活記録を把握し共有しています。毎月体重測定を実施し、一覧表に水分の摂取や食事の摂取量を記入、情報を共有し支援しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下には誕生会や行事での写真の掲示、手作りの作品が飾られており季節感を感じる工夫を取入れています。居室の表示やカレンダーも大きく見やすい位置に掲示しています。不快な音や光がない配慮もされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に利用者や家族に説明がされており今まで使用していた布団・タンス・テーブル・イス・写真・テレビ等を持ち込み自分らしい空間で生活をしています。		